

# とっとりの若者による 政策提案会

 とっとり若者活躍局



とっとり未来創造タスクフォース

MIRAI SOZO TASKFORCE

～ 2024.10.27 ～

(1) 移住・定住、  
關係人口創出

県外在住の学生等への直接的な情報のリーチが難しい中で、「保護者・家族」を介する形での就職・移住情報の発信を強化するべく、ターゲットとなる保護者層に対して影響力の大きいローカルメディアと連携した新たな情報発信を行う。

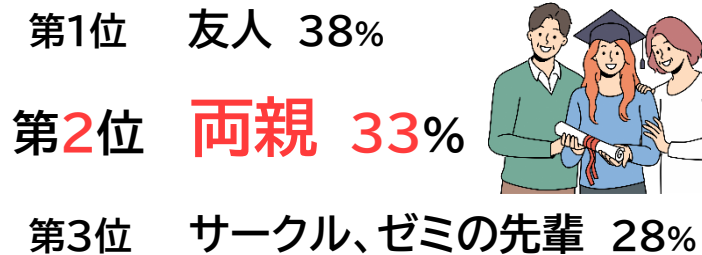
就活で親にアドバイスをもらった経験がある？

ある  
61%



就活で誰の意見を一番信頼しますか？

(複数回答可)



県外在住の鳥取県出身学生にとって…

### 信頼する保護者・家族



### 県内就職に関する重要な情報源



※ 株式会社ABABA「就職活動の状況やゴールデンウィーク(以下、GW)の過ごし方、就職活動生側からの「オヤカク」に対する考えなどの就職活動状況に関する調査」に基づき作成

## ローカルメディア × 保護者・家族向け情報発信

テレビ



ラジオ

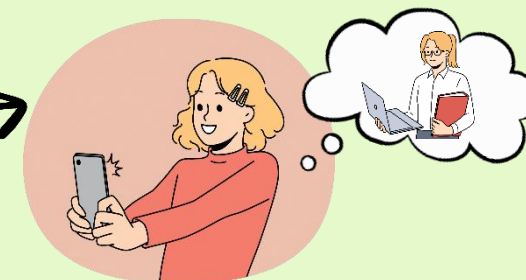


新聞



と連携し、就職・移住関連コンテンツ(番組、記事等)を作成

1. 親世代(30代以上)に影響のある地域の媒体とともに発信
2. TVer、radiko等 ネットを通じて県外在住の子どもへのシェアも簡単



鳥取県出身の県外学生のハブ役となる「学生コーディネーター」を中心として、県外に転出する学生が鳥取県との繋がりを維持し、将来的なUターンにつながる仕組みづくりを、学生が参加しやすい”学生限定のコミュニティ形成”によって進めていく。

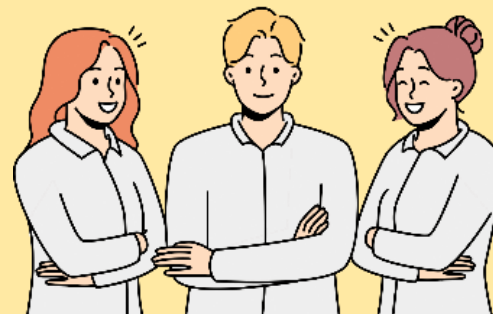
### 提案する県外ネットワークの形

学生コーディネーターを中心に”学生限定のコミュニティ”を形成  
ふるさとの記憶が鮮明であり、県外へ転出して間もない学生たちと鳥取県の繋がりを維持・発展させる

学生コーディネーター(学生)



コンシェルジュ(社会人)



社会人も含む  
コミュニティへ誘導

#### ■ 定期交流イベント(リアル開催)



年度初めには進学直後の学生を対象とした  
新入生歓迎イベントを開催

#### ■ とりふる等を通じた情報発信(オンライン)



県の情報発信アプリ「とりふる」の機能強化により、  
オンライン上でも定期的な情報発信やコミュニティ交流を展開

■ 大規模交流イベント  
(年1回程度)

■ テーマ別イベント  
(定期開催)

■ SNS等を通じた緩やかな繋がり、情報の受発信(通年)

鳥取県との繋がりを途絶えさせないために重要な”学生期の接点構築”を進める



# (1)「牛骨ラーメン」のブランド力向上による関係人口創出

## II 関係人口創出

本県独自の進化を遂げ、県内でも提供店舗が広がりつつある「牛骨ラーメン」を県内飲食店とも連携しながら、ブランド力向上・全国へ情報発信することで、鳥取県の認知度向上と食を目的としたさらなる関係人口の創出を図る。

国内旅行の目的(10-20代)  
(複数選択可)

第1位 地元の食 27%

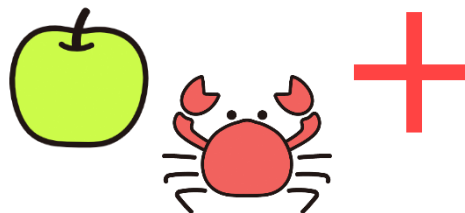
第2位 宿 25.2%

第3位 温泉・露天風呂 23.9%



※じゃらんリサーチセンター「国内宿泊旅行ニーズ調査2023～2024冬 調査報告書」

鳥取県の強みである  
農水産物



### 牛骨ラーメン



※提供元:公益社団法人鳥取県観光連盟

- 全国でも珍しい独自のグルメ
- ランチなどで身近に触れやすい
- 提供店舗が100店舗以上存在

### ブランドの基盤整備

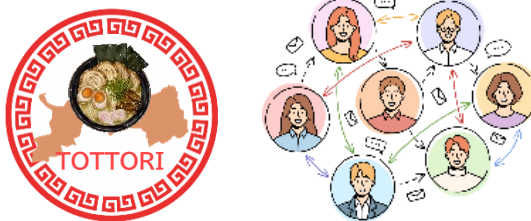
#### 連載企画「とっとり牛骨ラーメン大図鑑」



- 各店舗の店主に焦点をあてた連載取材企画を実施
- 取材記事の発信はもちろん、併せてブランド力の基盤となる牛骨ラーメンの歴史の整理、紐解きも行う

### ファンコミュニティ形成

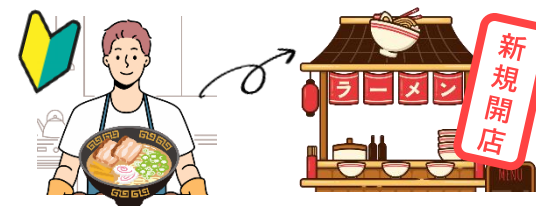
#### とっとり牛骨ラーメンファンクラブ



- 牛骨ラーメン店の情報やイベント情報等を定期的に受け取ることのできるオンラインコミュニティを組成
- 全国のラーメンファンがつながるリアルイベントも開催  
例:各店舗の食べ比べや調理体験ができる「牛骨ラーメンツアー」  
牛骨ラーメンのキャッチコピー等を考える「牛骨ワークショップ」

### 移住・関係人口創出

#### とっとり牛骨ラーメンアカデミー



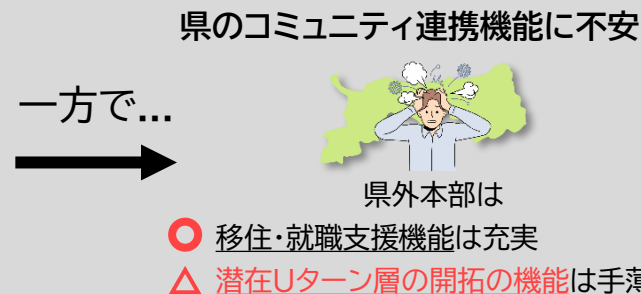
- 牛骨ラーメン屋の開業をサポートするプログラム「とっとり牛骨ラーメンアカデミー」を開講
- ラーメンの作り方や開業のノウハウ伝授を行い、県内外での「牛骨ラーメンによる関係人口」創出を目指す

現在首都圏を中心に活動が広がりつつある民間主導の鳥取県コミュニティとの連携強化等を目的として、本県の窓口的な役割を果たす人員を新たに東京本部に配置することにより、若者のUターン促進等に向けた動きを加速させる。

## 現状



- 首都圏にて民間主導の鳥取県の若者コミュニティが複数誕生
- 100名以上の会員を抱えるコミュニティもあり、将来的なUターン検討者層になる可能性も大いに期待できる



## 想定案

東京本部にコミュニティ窓口人材を配置



連携



潜在Uターン検討者の掘り起こしが可能に

- コミュニティメンバーの継続的な状況把握により、県出身者等のリアルタイムな移住意向の情報が得られる
- 適切なタイミングでの支援施策や関連する県イベントの情報伝達により、着実に移住に近づけることが可能に

コミュニティ窓口人材の主な機能

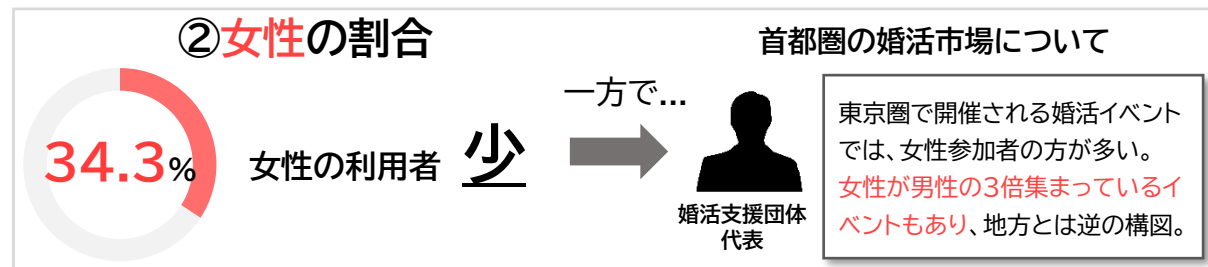
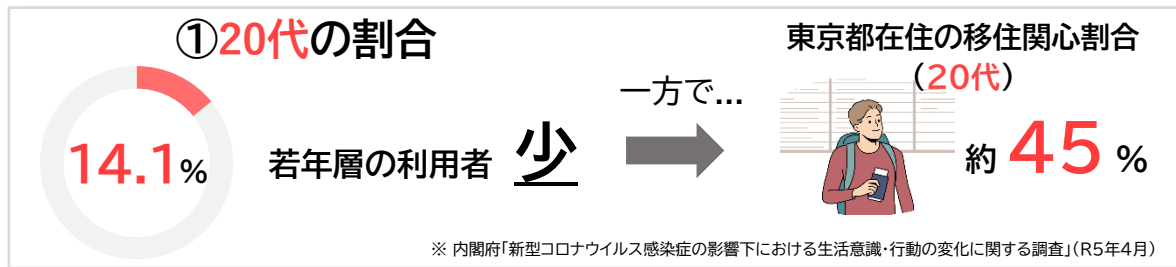
- コンシェルジュ・コーディネーターとの連携  
例: コミュニティメンバーに関する情報収集  
県施策(イベント、支援制度等)の周知
- プラットフォームとの連携施策の企画・運営
- 鳥取県出身者・関係者等の新規開拓

# (2) 出合い・子育て、 教育

都市圏在住と県内在住の異性が出会う交流イベントの開催や、都市圏在住者の「えんトリー(※)」登録促進などにより都市圏在住者と県内在住の異性とのマッチングの機会を創出することで、県内在住者との交際や結婚を契機とした移住者の増加を目指していく。

(※)えんトリー：とっとり出会いサポートセンター及び、当該センターで運用されている有料会員制のマッチングシステムを指す

### えんトリーの利用者から見る鳥取県の婚活支援における課題



## ■ 都市圏在住者と鳥取県在住の異性との交流イベント

### ①都市圏での交流会実施(1stステップ)



- ・都市圏在住の鳥取移住に関心のある婚活中の20～30代と鳥取県内在住のえんトリー会員に交流してもらうイベントを実施
- ・事前に都市圏自治体等と連携してイベント情報を発信

### ②鳥取県内での婚活×移住ツアー(2ndステップ)



- ・①の参加者を県内に招き、地元住民との交流や体験活動を実施(ツアー内容の一例:同世代との交流会、農泊体験、県内観光 等)
- ・県外からの参加者には、交通費及びイベント参加費の一部を助成

## ■ 都市圏在住者のえんトリー登録促進



- ・イベントに参加した県外在住者にえんトリーの登録支援(登録費を一部助成)
- ・随時、オンラインお見合い等でのマッチングを促す



社会・地域貢献に関心のある女性を主な対象に、婚活中の男女のマッチングサポートに関する手法・ノウハウを学べる講座を開講。講座受講者の「縁結びナビゲーター(※)」としての活動を後押しすることで、女性を中心に地域で若者の婚活を支える機運を醸成する。(※)縁結びナビゲーター(縁ナビ):「えんトリー」の機能の1つ。自分に合う結婚相手を紹介してもらうことを希望する未婚者に、相手を探したり、お見合いのセッティングを行う。

“現代版仲人”である縁結びナビゲーター(縁ナビ)は一定の成果を挙げているが...



年配の方よりも、年齢が少し上くらいのお姉さんの方が相談しやすい



電話は苦手なので、LINEなどのチャットで相談できる縁ナビが良い



女性の社会参画・副業等を支援する県事業 → 応募者多数



相談しやすい“年齢層が近い女性”の縁ナビを求める若者のニーズ

子育てが少し落ち着いた方など女性の社会参画意欲 高

男女の  
マッチング支援  
に興味がある!

もっと地域・社会  
に参画したい!

マッチング能力  
を高めて、仕事に  
活かしたい!

### 子育てが少し落ち着いた方など、鳥取県内の女性が婚活マッチング支援のノウハウを学べるプログラムを実施

参加者募集

#### オンラインマッチングプランナー講座 (想定対象年齢:25~45歳)

①座学講義(アーカイブ動画有)  
マッチング支援の基礎知識・ノウハウを学ぶ

②ロールプレイング実習  
LINE等での相談対応について実践形式で学ぶ

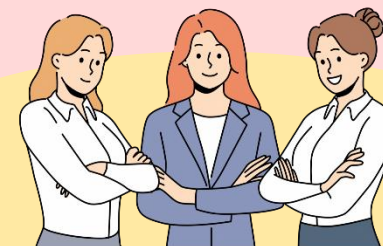


縁ナビプレミアム(仮)として活動  
(最低1年間の活動を義務付け)

プログラムを経た縁ナビを「縁ナビプレミアム(仮)」  
として登録し、マッチング活動を開始

縁ナビ統括リーダーとともに  
他の縁ナビへの支援ノウハウの共有を行う

民間のマッチングプランナーとして活動(希望者のみ)  
プログラムから継続して、支援能力の向上を目指す



- 女性の縁ナビが増え、「相談しやすいサービス」のイメージに
- 縁ナビによる口コミにより、えんトリーの周知拡大が期待

過去に県の出会い・結婚関連事業を活用してマッチングしたカップルを募集し、インタビュー形式で体験談を語っていただくキャンペーンを実施。その成果物を記事化し、鳥取県公式ウェブサイトやSNS等で発信していく。

## 現在のえんトリウェブサイト



自分のためにも相手のためにも積極的になることが大切

えんトリナコード  
西部地区 男性 20代 西部地区 女性 30代

婚活で大切なことは“視野を広く持って、少しでも良いと思う人とは積極的にお話してみること”  
えんトリの活動を通して、自分のためにも相手のためにも積極的になる事の大切さを知りました。  
本当にお世話になりました！  
ありがとうございました。

実際のえんトリ利用者の  
イメージが伝わりづらい

↓  
本当に使っている人が  
いるのか不安...

## 理想的な体験談紹介イメージ



Uターンしたタイミングで出会いました

<b>花子さん</b>	<b>太郎さん</b>
年齢:20代	年齢:20代
出身:西部地区	出身:中部地区
趣味:カラオケ	趣味:サッカー観戦

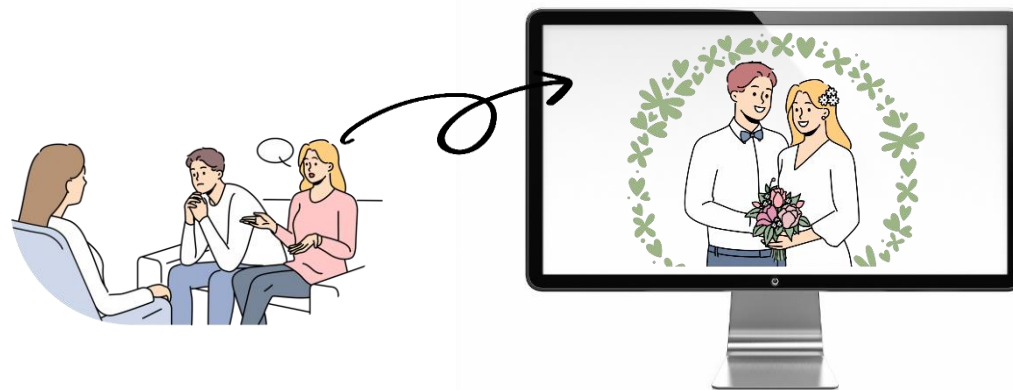
Q.初対面の印象はどうでしたか？

Q.2人のデートの思い出は？

どんな人が利用しているか  
がわかりやすく伝わる

↓  
サービス利用への  
ハードルを下げる効果

## あなたのマッチング体験教えてください！キャンペーン



### 概要

- ・県の出会い・結婚施策で成功体験を持つ人を募集し、インタビュー
- ・内容を記事化し、えんトリウェブサイトやSNS等で発信していく

### 対象者

えんトリ or 県の出会い・結婚支援事業で  
マッチング・成婚したカップル 5組程度

### その他

インタビューに答えていただいた方には、鳥取県産品をプレゼント

子育て関連団体や県内市町村、庁内関係部局が連携し、各種データ等に基づき、本県の子育て環境の魅力や現状等について分析するワークショップを実施。そこから得られた知見を基に、官民各プレイヤーがアウトプット(事業・サービス)を実行・展開していく。

### 1st STEP ワークショップ

#### 行政関係者等でのワークショップ



- <参加メンバー>  
県・市町村関係課(子育て、移住等)
- <想定内容>  
①鳥取県の子育て施策の棚卸分析  
②他地域の先進施策の共有

#### パパ・ママ+子育て団体とのワークショップ



- <参加メンバー>  
・移住経験のあるパパ・ママ層  
・子育て支援団体 等
- <想定内容>  
①鳥取県の子育て環境の強み分析  
②移住関心者に刺さる要素の検討

子育て当事者 + 行政  
それぞれの立場から  
鳥取県の子育て環境を言語化

### 2nd STEP PR素材の作成

ワークショップの議論を基に、

- ・移住経験者の生声
- ・子育て環境の強み

などを含めた移住関心者向けの  
発信素材を作成



#### リーフレット

4-8ページ程度で簡潔に  
「シン・子育て王国鳥取県」を発信



※画面はイメージです

#### 移住者向け特設ページ

「シン・子育て王国鳥取県サイト」  
にてブランドイメージを訴求

#### その他 (県・市町村による政策立案)



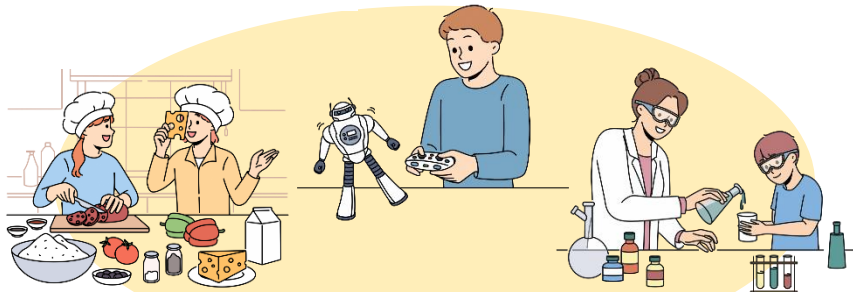
ワークショップで議論された意見等を  
PR素材の作成に留めず、  
県・市町村における政策立案にもつなげていく

義務教育以降における、多様な体験活動や教育の機会提供の充実化に向けて、放課後子ども教室を中心とした拠点と、教育活動への協力を前向きな地域企業等をマッチングし、放課後子ども教室の活動をサポートする仕組みをモデル的に構築していく。

理想とする拠点のイメージ



子どもを預かる場

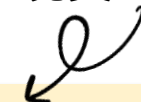


子どもに多様な体験活動を提供する場

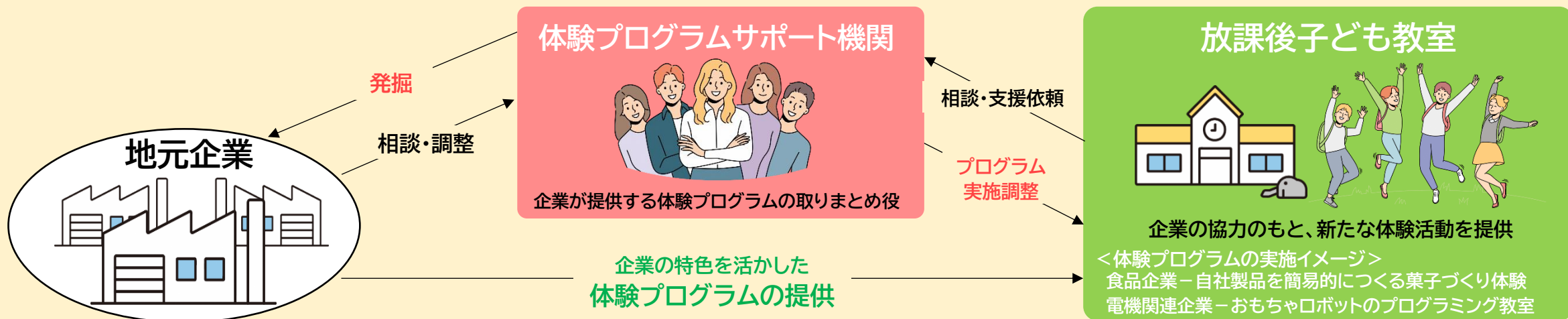
ただし、

- 1. 体験内容(コンテンツ)不足
- 2. 担い手不足

が現実的な課題



地元企業が子ども向け体験活動の担い手となる「**地域企業×放課後子ども教室**」の連携モデルを構築する





県外在住の子どもの教育環境に高い関心を持つファミリー層をターゲットに、児童期以降における本県の特徴あるアスリート育成の仕組みを訴求していくべく、現在のジュニアアスリート発掘・育成制度の募集要件の緩和、県内外へ向けた情報周知施策の強化を行う。



### 子どものスポーツ環境

がファミリー層の移住  
のきっかけとなるケースが存在

#### 鳥取県のジュニアアスリート発掘・育成



- 国際大会等に出場できる可能性を秘めた子どもたちを発掘・育成することを目的に創設。
- 初めて挑戦する競技であっても、各団体の協力のもと、競技体験ができるプログラムを備えていることが特徴。

移住を検討するファミリー層にも刺さる内容では...?

#### 応募資格の拡充

プログラムの応募資格を  
応募時点で県外在住者でも  
認める形に変更

現在

県内に在住 or 県内の学校へ通学

追加要件

1年以内に移住 or  
県内の学校へ通学する見込みあり

#### オンライン説明会の実施

県外在住者にも積極的に事業広報  
するべく、参加者募集にあたっての  
事前説明会を実施

※説明会の周知にあたっては移住関連部局とも連携



#### ジュニアアスリート発掘の流れ

発掘プログラム

募集

1次選考 書類選考(合格発表:10月下旬)

2次選考 体力テスト(合格発表:2月中旬)

候補生認定(認定式:3月下旬)

県外在住  
でも応募可

移住完了

育成プログラム

(共通プログラム + 競技体験プログラム)

# (3) 持続可能な地域づくり、 庁内改革

若者とともに長期的な視点で地域の未来を考えながら、地域で活動する若者の活動の発信、様々な活動主体の交流の促進をタスクフォース自らの事業として実践していくことで、地域の若者による地域を盛り上げようとする機運の醸成を進めていく。

### 鳥取県30年後の未来予想図事業

若者県民メンバーとともに  
鳥取県の「未来予想図」を作成



<令和6年度実施内容>

- 10名の県民メンバーと約半年間の連続ワークショップで、テクノロジーの最新情報等を基にした鳥取県のあるべき姿を議論

### 若者と一緒に創る！とっとり未来創造ラジオ

※R6事業名「県民参加&公開型企画会議ラジオ」

県内で活躍する若者の活動等を広く発信



<令和6年度実施内容>

- 鳥取県内の若者世代のゲストとともに鳥取県のあるべき未来の姿を意見交換し、今後の政策の種を見つけていくラジオ番組を放送(コミュニティFM)

### U35が繋がる! 若者交流基盤創出事業

県内の若手世代が企業・団体を越えて交流する  
イベントを実施



<令和6年度実施内容>

- 今年2月以降、東中西部の県内各地で20～30代の若者世代が集まる交流イベントを継続的に開催。

### “活用”の促進と“磨き上げ”

令和6年度に作成した未来予想図の活用(例:市町村職員も含めた政策立案プログラム、子どもが鳥取県の未来について考えるツールの検討)や、作成した未来予想図の内容の見直し・要素の追加等を進めていく。

### 発信手法の強化等

これまでのコミュニティラジオ等を通じた発信は継続しながら、若者に浸透しつつあるpodcast等を活用した情報発信など、発信手法等の強化を行う。  
※未来予想図のテーマに沿ったゲストとのトークも実施

### 実施回数の見直し

これまで開催したほとんどの回で定員以上の申込があり、参加ニーズも高いことから、実施回数を増やすことで対応し、継続実施していく。(年12回程度に倍増)

現行

変更案

「フレックスタイム制度の改良」に併せて行う「選択的週休3日制の導入」、そして「在宅勤務制度の拡充によるテレワークの推進」等の勤務体系の柔軟化を進めることで、ワーク・ライフ・バランス及び業務効率向上、残業時間の削減につなげていく。

### フレックスタイム制度

### 在宅勤務制度(テレワーク)

**規則上の勤務時間の課題**  
規定上の実質勤務時間が長く、フレックス制度が使いづらい  
柔軟な活用が阻害される

**制度活用に向けた環境整備の必要性**  
季節によっては早朝・夜間勤務が厳しい...  
各職員の動きが見えづらい

**勤務場所が限定的(自宅のみ)**  
自宅にテレワーク環境が整っていない...

**取得可能な日数が少ない(週1日のみ)**  
集中できる環境で作業したい  
家族との時間を増やしたい

**勤務時間 必須勤務日 を改正**  
実質勤務時間 ~~6時間(現在)~~ **短縮**  
必須勤務日 ~~月×金~~

**制度利用が進む環境整備**  
早朝・夜間の空調室の設置(夏季期間等)勤務時間等を視認できる仕組みの構築

**勤務場所の制限を緩和**  
自宅に加え、コワーキングスペースや公共施設も利用可に

**取得可能日数を拡充**  
**週3日**まで  
制度活用の上限を拡大

勤務体系の一層の柔軟化(+制度を使いやすい職場環境づくり)により、もっと職員に優しい職場へ



県職員が多様な経験を積むことによるスキルアップや、県庁内外の組織における課題解決を目的に、職員が他課の業務に一時的に従事できる制度の導入や、民間企業・団体等での副業に取り組みやすくなる仕組みの構築を進める。

### 他課の業務とのマッチングによる“庁内副業” (県庁内)



若手職員の声(職員アンケートより)

多様な業務経験を積むことによって  
自分の適性を知りたい

### 地域課題解決×県職員の“副業” (県庁外)



自分の知識や得意なことを活かして  
今の所属以外の役にも立ちたい

担当外  
活動 20%

通常業務  
80%

職員自らのスキルや経験、熱意を活かして  
他課の業務にも従事することができる仕組み  
(20%ルール(※))を導入する

(※)20%ルール:Google等のIT企業で採用されている制度。近年では環境省、自治体(福井県、長野県等)でも導入が進む

<対象となる業務(例)>  
スキルを活かしたチラシ等のデザイン  
イベント運営、企画のアイデア出し  
会議のファシリテーター等

職員が副業を通じて地域に貢献していくための  
機運醸成と仕組み構築を進める

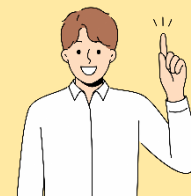
#### ① 許可事例の周知



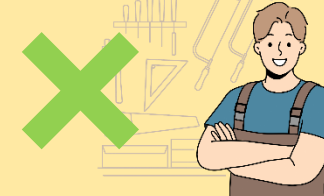
すでに従事許可がなされた  
職員の副業事例等を庁内で周知

#### ② 県職員副業求人マッチング

県職員



企業・団体



人手不足が深刻な業種・分野において、  
県職員との副業マッチングを試行